

経営情報学科

キーワード

地域経済、地域科学、都市政策、都市計画、交通経済、港湾、物流、コンテナ貨物輸送、
公共政策



准教授 / 修士（社会工学）

近藤 智士

Tomonori Kondo

主な研究と特徴

「地方都市における人口分布の集約・拡散」

日本の地方都市においては自動車の普及に伴う居住地の拡散と商業施設の郊外立地の進行によって市街地面積が拡大する一方、人口の低密度化が進行したとされている。しかし、既存の研究や分析の根拠データについては市全体の人口密度やDID人口の把握にとどまり、それぞれの都市のもつ地形的、空間的な特性をふまえた全体像を把握するための視点が不足している。今後の人口減少社会においては都市そのものが収縮することが想定されることから、市街地をコンパクトに再編することによって移動時間の減少による生産性の向上、公共交通の充実による交通弱者への移動機会の提供、財政・経済面での持続可能な都市経営の構築、環境保全とエネルギー負荷の削減などの政策的な効果が期待されるが、まずは適切な現状把握と分析が必要である。そこで本研究では地域メッシュデータを活用した人口密度関数の推計により、各地方都市の市街地の集積・拡散の状況について時系列の変遷や都市間の比較分析を行うこととしている。人口密度関数についてはClark (1951) 以降、さまざまな関数形により都市の人口分布が分析されているが日本では大都市圏を対象とした分析が多い。一方、本研究では地方都市を対象として都市計画の制度的な差異、たとえば市街化区域と市街化調整区域の開発状況の差異を踏まえ人口密度関数の推計を行っている。具体例として富山市の人口分布を分析したところ、2005年から2010年にかけては市街地が拡散する傾向にあったものの、2010年から2015年にかけては集積する傾向が見られ、同市が進めているコンパクトシティ政策には一定の効果が確認できた。今後は北陸地方のみならず、対象を全国の地方都市に広げ市街地形成の状況についての比較研究を試みる。また、2014年から創設された立地適正化計画に基づく「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」の内外における人口分布の変動について計測するとともに、制度導入による効果や公共交通機関の有無の効果などについて検証を行う。

「地方港を活用した物流効率化」

京浜港や阪神港などの主要港の周辺道路においては渋滞が常態化し、輸出入貨物の遅延が頻発することで円滑な物流の妨げとなっている。そこで主要港周辺の陸上輸送を回避し、地方圈発着の貨物については主要港からのフィーダー航路により近隣の地方港で揚げ積みを行う、あるいは海外と地方港を直接結んで輸出入を行うなど、我が国の物流効率化の手段の一つとして地方港利用が考えられる。ただし、荷主企業からすると地方港は寄港頻度、航路数が少ないこと、CIQ施設や荷役設備の不足など、港湾をめぐる物流サービスの利便性が主要港に比べて低いことから利用には制約がある。一方、海運企業からすれば、背後圏の人口や産業集積の規模が小さく集荷量に限界があることから寄港頻度や航路数を増加させることが困難である。こうした地方港のもつ課題を踏まえ、地方港を利用しても物流効率化を図るためにどのような条件が必要なのか、空コンテナの有効利用やモーダルシフトなどの物流コスト削減のための取り組みを考慮しながら分析を行う。また、近年の海運業界における船型規模拡大や船社アライアンスの動向、世界の主要港における港湾施設の巨大化など、海運、港湾における世界的潮流にも着目しながら分析を行う。

今後の展望

コンパクトな市街地の形成は都市の維持費用の低下をもたらすとともに、人々の移動時間の減少と交流機会の増大を通じて労働生産性の向上をもたらすとされている。また輸送、移動費用の低下は都市や地域のあらゆる経済活動の効率化を促すことになる。これらに加え、都市の経済成長にとって最も重要な原動力となるのは人的資源の集積であり、高度な知識や技術をもった多様な人材が集まることで新たなアイデアやイノベーションが創発され、都市の経済成長を促すとされている。そこで日本における三大都市圏以外の地方都市の就業者数、経営者や専門的技術者数、労働生産性などの人的資源に関するデータと、都市のコンパクト性や人口密度などの都市のもつ地形的、空間的特性との関連を通じて都市や地域の経済成長の要因について分析を試みたい。分析の手法としては計量経済学的手法に加えて、それぞれの人材の出身地や経歴などの非集計データを用いたネットワーク分析を想定している。また、それぞれの地域の自然的、地理的条件や歴史的な経緯などを踏まえつつ、地方都市それぞれの形成過程に関する分析を深化させたい。

学歴

早稲田大学 商学部、筑波大学 大学院 経営・政策科学研究科 経営・政策科学専攻 修士課程

経歴

茨城県職員

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

地方都市における人口分布の集約・拡散 地方港を活用した物流効率化

メールアドレス

t-kondo@fukui-ut.ac.jp

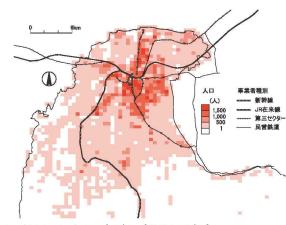


図1. 富山市における人口密度 (2015年)

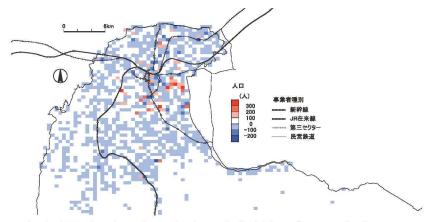


図2. 富山市における人口密度の変化状況 (2010年から2015年にかけての増減数)



図3. 京浜港におけるコンテナターミナルの混雑や頻発する周辺道路の渋滞

所属学会

応用地域学会（2004年～現在まで）

地域デザイン学会（2019年～現在まで）

地方行政実務学会（2020年～現在まで）

主要論文・著書

近藤智士「電気事業におけるヤードスティック競争の分析－公的規制と地域独占は企業を非効率にするか－」早稲田商学378号(1998年), 107-131.

難波喬司、土井正幸、近藤智士「常陸那珂港を活用した北関東地域の物流効率化実現」日本物流学会誌(2001年), (9), 77-84.

「港湾と地域の経済学」市村眞一監修、土井正幸編著、多賀出版(2003年),

第1章第2節分担執筆